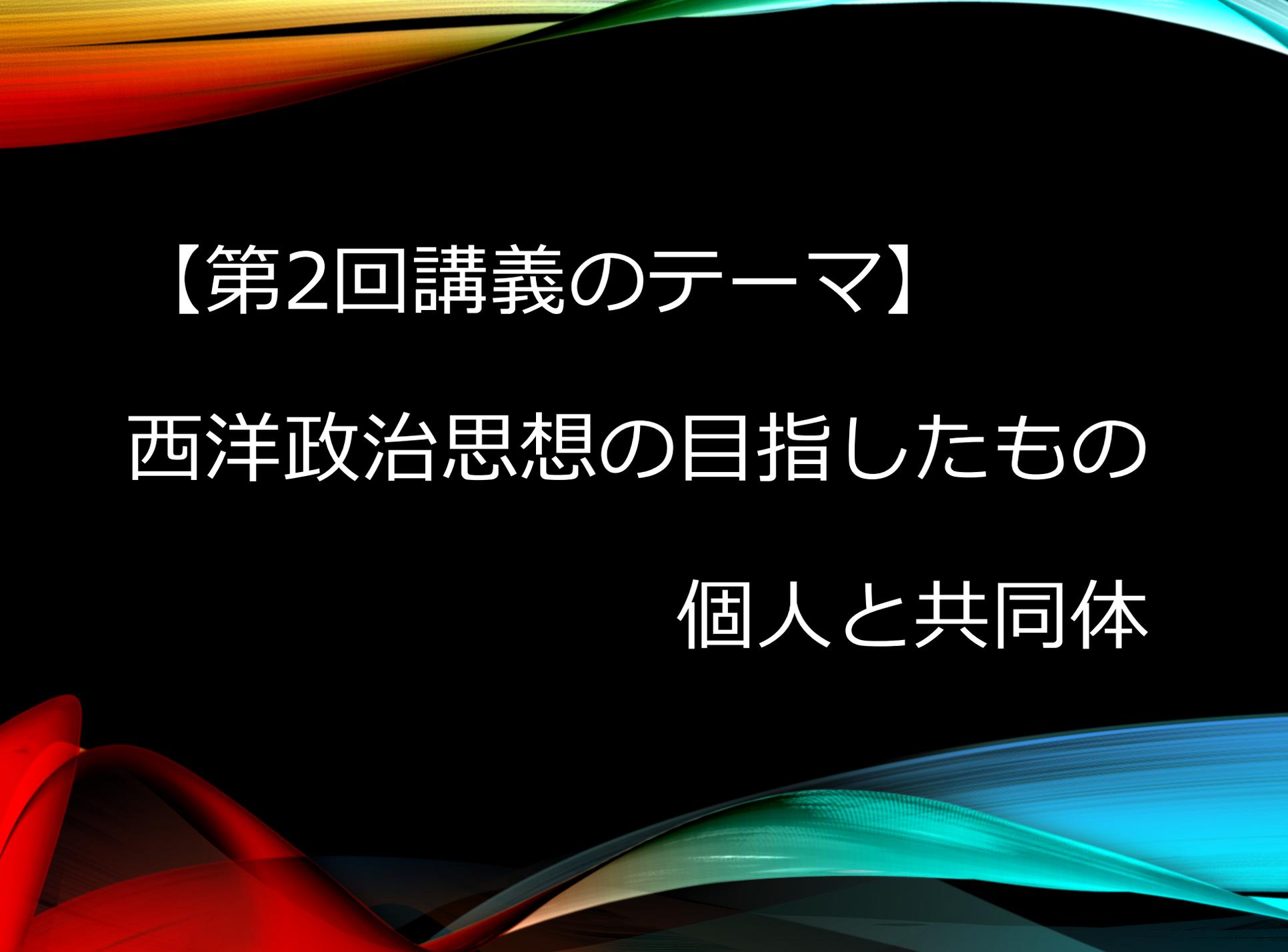


日本大学法学部
「西欧政治思想史」
「西欧政治思想史I」

杉本 竜也



【第2回講義のテーマ】

西洋政治思想の目指したものの

個人と共同体

西洋政治思想の源流

古代ギリシアの国家形態

都市国家「ポリス」 (polis)

- 平等な**市民**によって構成された共同体
- 言論（議論）による政治参加
- 市民による防衛
※ただし、女性や奴隷は、政治から排除されていた。

ギリシア思想の根本概念

「自然」 (physis ピュシス)

人間の力が影響しないもの



「人為」 (nomos ノモス)

人間の力によって生み出されるもの

例) 政治・法律・制度・文化・技術
→ポリスは、個人としての市民の
人為によって成立する共同体

⇒政治や社会に参加すること = 自由

中世の政治思想の中核

キリスト教（特にカトリック）

- ・ 唯一絶対神に対する信仰
→ 政治思想等の社会規範は、世界に普遍的に通用する。
- ・ 被造物（人間等）に対する神の優位
→ 神の世界と人間の世界は完全に区別され、人間には神に服従する義務がある。

⇒ **君主に対するローマ教皇の優位**

近代国家の成立

絶対王政 (absolute monarchy)

- ・ 教会勢力からの自立
- ・ 貴族等の国内有力者の抑制
- ・ 国内経済の促進 (自由な取引等)
- ・ 海外勢力への対抗



王権神授説

(the divine right of kings)

君主の正統性は、直接神に由来する